

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念を具体化して、実践していく取り組みが十分にできていない。	法人の理念である「生きるよろこびを共にする」とは、具体的にどのような支援をすることかということについて、話し合いと実践を繰り返し行っていきたい。
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	この地域の理解を十分にしていない。積極的に地域の活動に参加することができていない。	まずは、自治会の活動に参加し、事業所のPRをすることから始めたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	地域住民とは距離がある。簡単な挨拶はするが、それ以上の関係はできていない。	車で外出するばかりでなく、この地域の中に溶け込めるように、地域に出かける、挨拶を交わす仲になる、地域の資源を発見し活用する等を行っていきたい。
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	自治会に加入しているが、具体的な活動には参加していない。隣にある保育園の行事や交流会には参加をしている。	地元や地域の活動がある時に参加し、地域の一員として認められるようになる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	全く行われていなかった。		地域の方に事業所を知っていただくため、また事業所として地域に貢献できる取り組みとして「寺子屋プロジェクト」を開催する予定である。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価にあたり、各職員に自己評価をしてもらい、外部評価について理解すること、具体的な改善についての取り組みをすることを行おうとしている。		自己評価の取り組みの取りまとめたものを発表し、事業所として何から取り組んでいくかということについて話し合いをする。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回開催をしている。事業内容や利用者状況を報告し、委員より助言してもらっている。その助言をもとに職員で話し合いを行い、できることから取り組みを始めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じて話し合いを行っている。また市が主催する会議に参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	実施していない。		研修の機会を設け、理解できるようにする(11月19日のセミナーに職員2人参加予定)。具体的な事例を通して学ぶ機会を機会を持てるようにする。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が研修を受け その内容について職員に周知した		具体的なケアの内容に照らし合わせ、ケアの方法について検討をしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	十分に説明し、わからないことがあれば、聴くことができるようにしている。契約するまでに期間を設け、その間も疑問点があれば問い合わせができるように配慮をしている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	特別な機会を設けていない。利用者の生活の中の発見や様子から察し、困っていることがあればこちらから聞くようにしている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月1回報告をしている。モニタリングの結果を説明したり写真を送付している。お預かりしている現金の出納帳の写しをお渡しし、お金の使いみちがわかるようにしている。支払い額が高いものは、事前に相談をしてから購入するようにしている(例えば靴の購入等する場合等)。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族懇談会を1回実施した。面会時に家族と話す時間を持つようにしている。重要事項説明時に事業所以外の苦情相談場所を説明している。常に利用者の状況を報告し、家族と職員が情報の共有をはかり、共通の認識を持って、ケアが行うようにしている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回の職員会議時に、職員の意見を聴く機会を設けている。その他、随時職員から相談があった時は、話を聞いている。それらの意見をできる限り運営に活かすようにしている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者の変化に応じられるように、職員と話し合いをもって、柔軟な対応をしている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	まだ異動や退職はない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修に積極的に参加できるように、最大限の配慮をしている。また日々の業務の中での気づきを実践できるよう、職員相互で話し合うことができるよう、ミーティングの時間を設けている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内事業所や地域の事業所との交流を積極的に行い、ネットワークの構築をしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>長時間勤務とならないように勤務表作成時に配慮をしている。また電話による無料相談システム(外部業者に委託)も導入している。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の勤務状況を把握するように努め、その時々職員に声をかけ、目標を持って、意欲的に仕事ができるようにしている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人となるべく面接をする機会を設け、不安や疑問に対応をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族とも、できる限り面接をして、不安や疑問に対応をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からまずは十分に話を聞き、相談に応じている。相談を受けた者だけでなく、事業所内の職員と相談をしながら、必要なサービスについて検討をし、その上で他のサービス利用が妥当と思われる時は、他サービス利用の対応をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その時々状況により、本人が納得したうえで、サービスを開始できるわけではない。サービス開始後に、本人ができる限り混乱なく、安心した環境の中で、馴染みの関係が築けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす時間を大切にし、生活を共にしながら、一緒に喜んだり悲しんだりすることができるようにしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族にも常に情報を伝え、ケアチームの一員として家族が機能し、利用者、家族、職員が一体となって本人を支えられることができるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族がある程度の距離をおくことで、よりよい関係になったり、関係性の修復がはかれるようになる。本人と家族が離れて暮らしていても、家族というユニットの継続ができるよう、本人と家族の支援をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の存在を第一としている。本人と家族の意向を大事にしなが、関係性の継続ができるように支援をしている。また友人や知人がいる方については、その方にも来所してもらえるように働きかけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が関係性をもちながら生活ができるよう、共に行動をしたり、職員が仲介してその場に一緒にいることができるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>退所した利用者と手紙での交流を続けている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の状況を家族から聞く、生活史を書いてもらうようにして、本人の思いをわかるようとする努力をしている。十分でない場合は、生活を共にしながら、利用者の話を聴いたり、生活の様子を見て、利用者本位の生活ができるように話し合いをもっている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族や入居前に利用していたサービス提供者より情報を得て、今までの生活が継続できるように努めている。情報が不十分な時は、入居後に生活を共にするなかで、利用者の理解を深められるようにしている。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>各職員が本人の観察をして、「できること」を発見した時は、そのことについて実行できるように、また、そのことができる環境を整える等をしている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は介護支援専門員だけでなく、家族や他の職員、関係者の意見を聞きながら、その人らしさが発揮できる介護計画を作成している。</p>		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に関係者で話し合いをもち、モニタリングを実施し、見直しを行っている。また、変化に気づいた時は、即時、関係者の意見を聞き、見直しを行うようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、そのことを共有できるようにミーティングを実施している。定期的にモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性について十分に認識ができていない		事業所として柔軟に対応できることは何かということ、職員や関係者と話し合っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の活用はあまりできていない。		外部からの協力を得ることがまだできていない。事業所のPRが足りないと思われるので、地域に向けて事業所の存在をアピールしていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	そのような観点からの支援はできていない。		他事業所との関係が十分に持っていないため、今後は地域の事業所との交流を行いながら、事業所でできることを検討していく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ地域包括支援センターに相談をしなくても、所内で解決ができています。地域包括支援センターの相談員には運営推進会議に出席してもらい、事業所の状況をお知らせしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅療養支援診療所医師、精神科病院、(訪問)歯科医、眼科医、薬局との連携を行いながら、本人・家族が望む医療が提供できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門病院の協力の下、認知症専門医による診断、治療が受けられている。また認知症専門医による認知症を理解するセミナー等が開催されており、職員はそのセミナーに参加している。精神科医が運営推進会議に出席をしてくれている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	グループホームの非常勤看護師、併設の通所介護事業所の看護師が、介護職員の相談にのってくれている。また認知症専門病院に所属する看護師のバックアップも得られる体制になっている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、入院中に情報交換をしながら、早期に退院ができるような協働をしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対する対応はできていない。日々の診療の中で医師に本人の状況を伝え、本人の生活ぶりがわかるようにしている。変化があった時はすぐに医師が駆けつけてくれる体制がとれている。精神科医には事前にホームでの生活の様子をFAXで報告し、診療がスムーズにできるようにしている。		必要に応じ、その都度話し合いがされているが、重度化に対する方針についても、家族やかかりつけ医と話し合いをもつようにする。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に対する対応はできていない。		事業所でできることを確認している最中である。またできることを増やそうとする努力もしているところである。
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居した方が1名いた。その方の場合は、家族、次の住居(有料老人ホーム)の職員と話し合いを持ち、利用者にとって一番いいと思う方法を検討した。こちらでの生活状況についても情報提供をした。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>常にそのように気をつけている。職員間で気づいたことは、すぐに注意をしてすぐに直すようにしている。また家族との話し合いを大切にして、利用者が望む生活が営めるようにしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の話をよく聴くこと、行動をともにすること、行動を観察することにより、利用者が望むことを発見できるようにしている。不明な点があれば、家族に連絡をとって聞くようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の日々の状況に応じ、本人の望むであろうことを、個別の対応や柔軟な対応をして行っている。</p>	<p>現在は利用者が少ないため、できていることが多いが、今後利用者がふえてきた時には、個別対応ができにくくなるのが予想できるため、人数が増えた時の想定をしながら、職員は対応をするようにする。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の協力を得て、本人の好む衣類の準備をしてもらっている。その人らしい服装や、本人が望む髪型ができるように、近隣の理美容室に行くようにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者ができることを見極め、「やろう」と思うような意欲を高める声かけをして、食事の準備や片づけを職員と共にしている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>好みのものを本人や家族に聞いて、それを提供することをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>経過観察をしながら、日中はおむつを外すことができた方もいる。人により状況は異なるが、本人の能力を見極め、不必要なおむつは使用しないようにしている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>本人に声かけをして、本人の望む時間にゆっくりと入浴ができるようにしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>本人の状況に応じた休息や睡眠がとれるように支援をしている。眠りSCANを使用して、夜間の睡眠の状態を観察し、日中の過ごし方についても、職員間で意見交換をしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>1日1日の生活が充実するように、本人の希望や生活歴を参考にしながら、体調を考慮し、お手伝いや活動に参加してもらっている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居時に本人、家族と相談の上、手持ち金の所持をするか否かを決めている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>できる限り、1日1回は外出ができるようにしている。外出先も本人の好みを聞いて決めているが、人員の配置上、個別対応はできていない。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>普段はいけないところに個別対応で行くことの支援はできていない。</p>		<p>希望があった時は、家族の協力を得ながら、実施していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は行われていない。		実施できると思われるので、利用者に電話や手紙の支援を働きかけていく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人が訪問したいようなアットホームな雰囲気づくりと職員がいつも笑顔で迎えることをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束しないケア」ということを常に確認し、実行できている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険防止の観点から、エレベーターは暗証番号でロックされている。建物の構造上、また現在入居している利用者の状況からみると、エレベーターをロックすることは致し方ないことと考えている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の状態を理解し、本人の状況の把握をしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	「生活」という視点を大切にし、物品を片づけてしまうことを極力しないように話し合いをして、置き場所の工夫をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のため、積極的に取り込むことは行っていない。		本人の状況から予想されるリスクに関しては、職員全員でその危険性を理解して、プランに取り上げ、経過観察をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルは各自で持っているが、定期的な訓練は実施していない。		看護師と相談の上、緊急時の訓練を至急実施するようにする。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1～2ヶ月に1回、防災訓練をしている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	本人の状況を家族に常に伝えるようにしている。状況を伝えるときにリスクの話もして、事業所としてできることと、できないことの説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に気づけるように、日々のケアを大事に行っている。ちょっとした変化でも気づいた時はスタッフ全員で共有し、素早く対応をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変化があった時は記録に残す、口頭で申し送りをするを徹底している。内服による変化については、職員で共有し、副作用が出た時には、すぐにかかりつけ医、又は精神科医に相談をしている。内服ミスがないよう支援時に、職員2人でチェックをしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘しないように食物や運動を実施しているが、それでも解決できない人がいる。		かかりつけ医に状況を報告し、指導を受ける。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	そのように取り組んでいるが、歯磨きに対し、拒否をする方もいるので、毎食後はできていない。定期的に歯科医の訪問診療があり、口腔内の清潔に取り組んでいる。		毎食後、歯磨をする声かけをしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士と相談をして、一人一人にあった食事量、形態、カロリー調整をしている。水分についても十分に飲水できるようにお茶の時間を設けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	利用者(家族)には、インフルエンザの予防接種をすすめている。職員は月に一回検便を実施している。職員はインフルエンザの予防接種を11月中に接種する予定である。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	その時々に必要な野菜、魚などを、業者が届けてくれ、すぐに冷蔵、冷凍保存をしている。食器は洗浄後、消毒器にかけて、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域の住宅地にマッチするような外観になっている。玄関は、一般住宅と同じような、建物表示となっている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設というよりも、一般住宅と変わらない造りになっている。建物に不快な音や光が入らない工夫がされているし、清潔感あふれる共同の空間となっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のソファで過ごすことができるが、快適な空間の確保はされていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族が相談して、本人が安心して暮らせる場所となるように工夫をしている。従来家になったものを持ち込むというよりは、居室の大きさにあった、軽微な家具を用意していることが多い。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	本人が体調を崩さないように、喚起や空調はこまめに調整をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面を重視し、段差を極力なくし、廊下には手すりが取り付けられている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋に表札のように名前のプレートを貼っている。洗濯機には操作手順がわかるように、表示がしてある。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周の掃除を一緒にしたり、ベランダで花や野菜を育てる等の工夫をしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

スタッフの介護経験や介護観が多様であるため、「話し合うこと」を中心に据えて、ケア計画を作成したり、ケア方法のあり方を模索している。「統一したケア」ではなく「根拠があり幅のあるケア」が実行できることを目指している。利用者の有する能力の気づき・発見し、それを職員で共有し実行できる力をつけていきたい。利用者の言葉に耳を傾け、生活の中から、本人の思いを感じ取り、いつも本人のことを理解しようと思い、本人から信頼される職員、チームを目指していきたい。家族には利用者の日々の様子や状況を報告し、情報の共有を図り、ケアチームの一員として、離れて暮らしていても、家族として、利用者の理解者として、代弁者として機能してもらえるような関係づくりをしていきたいと考えている。地域との関係はまだまだ弱いところである。開設して半年が経つので、さらに事業所のPRをして、地域から頼りにされる、地域に貢献できる事業所を目指したい。隣接する保育園との交流を充実させ、地域の一員として、毎日、楽しいことが一つでも多くあるよう、張りのある生活を送ることができるよう支援をしていきたいと考えている。